

令和7年度 中部DX大賞 受賞

『AI語り部で伊勢湾台風を次世代へ』

令和8年1月26日（月）、地域づくり技術研究所が進めている標記の取り組みが、『中部からインフラDXをリードする“24”の優れた取り組み』として、国土交通省中部地方整備局長より「令和7年度 中部DX大賞」を受賞しました。

伊勢湾台風から長い年月が経過し当時の記憶を伝承できる方々も高齢化により減少している現状を踏まえ、伊勢湾台風の記憶や記録を伝承するため、AI会話ツールを活用し、AIに伊勢湾台風被災者の立場で回答させ、被災者と対話しているかのような体験ができるシステムを制作しました。防災学習支援を念頭に、小・中学生対象の防災講座や防災イベントに活用しています。現在、名古屋市港防災センター、名古屋大学減災館、中部インフラDXセンターの名古屋市内3か所で常設展示しており、AI語り部との対話体験が可能です。

中部DX大賞は、インフラ分野のDXにおいて優れた技術や積極的な導入・普及を図る取り組みを奨励することで、中部地域のインフラ分野のDXを普及、加速させるための取り組みです。インフラ分野の生産性向上や省力化に資する優れた取り組みを共有することで、中部からインフラDXのさらなる普及・拡大を図り、インフラの未来を変える現場の変革を推進していくことを目的としています。

今後も、災害伝承など防災意識向上のため、新技術・DXを活用した取り組みを推進し、自分事として、多くの人へ伝わる防災啓発を展開していきたいと考えています。

